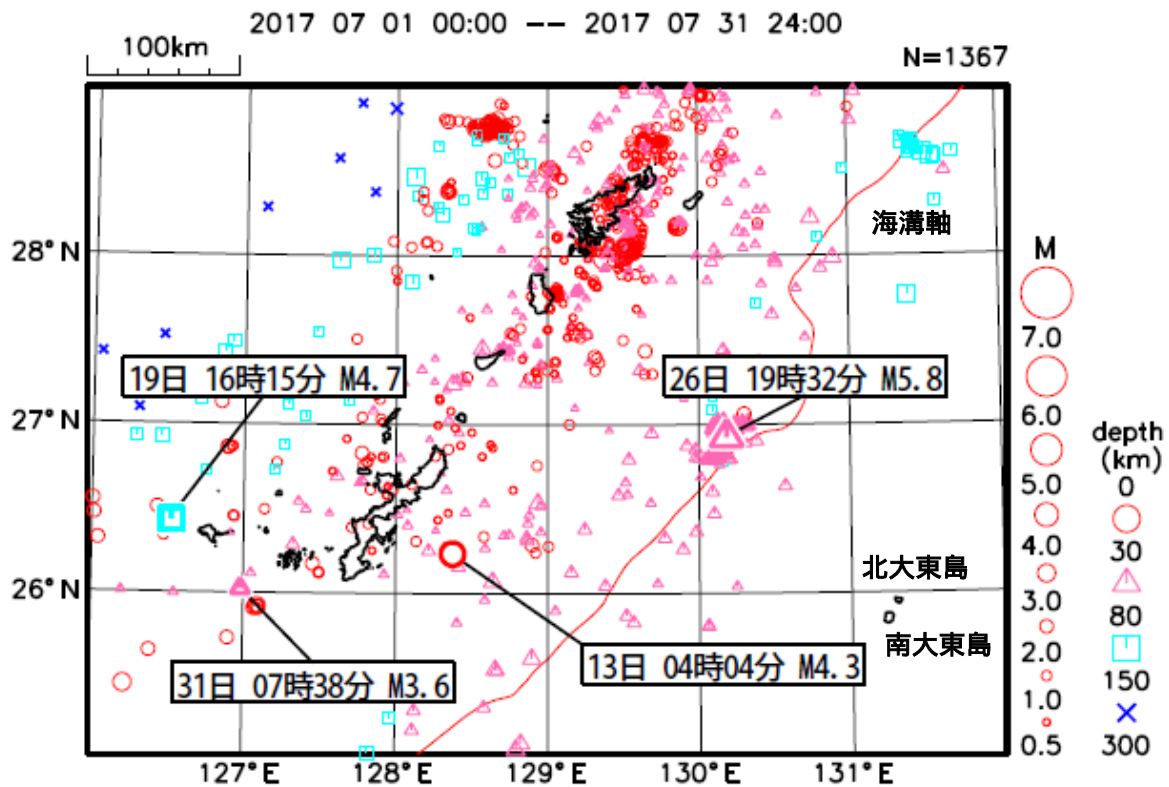


地震活動図

2017年（平成29年）7月

南大東島地方気象台

震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

[概況]

今期間に大東島地方、沖縄本島地方とその周辺（図の範囲内）を震源とする地震の回数は1367回（6月は1128回）、M4.0以上の地震は6回（6月は3回）でした。なお、大東島地方で震度1以上を観測した地震は1回（6月は0回）、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震は4回（6月は3回）でした。

13日04時04分に沖縄本島近海（那覇市の東約70km）で発生した地震（M4.3、深さ27km）により、沖縄本島で震度1を観測しました。

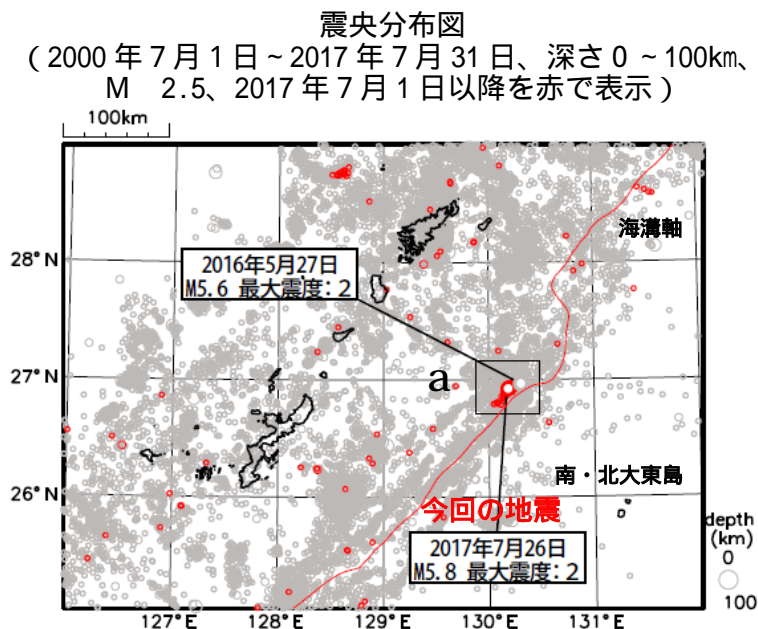
19日16時15分に沖縄本島北西沖（久米島の西北西約30km）で発生した地震（M4.7、深さ92km）により、沖縄本島地方で震度2～1を観測しました。

26日19時32分に奄美大島近海（南大東村の北西約160km）で発生した地震（M5.8、今期間最大規模）により、鹿児島県悪石島から沖縄本島、周辺離島及び大東島地方にかけて震度2～1を観測しました。この地震により北大東村で震度2、南大東村で震度1を観測しました。大東島地方で震度1以上を観測したのは、2017年5月15日に奄美大島近海で発生したM5.4の地震（北大東村で震度1）以来です。また、この地震の震央付近では、

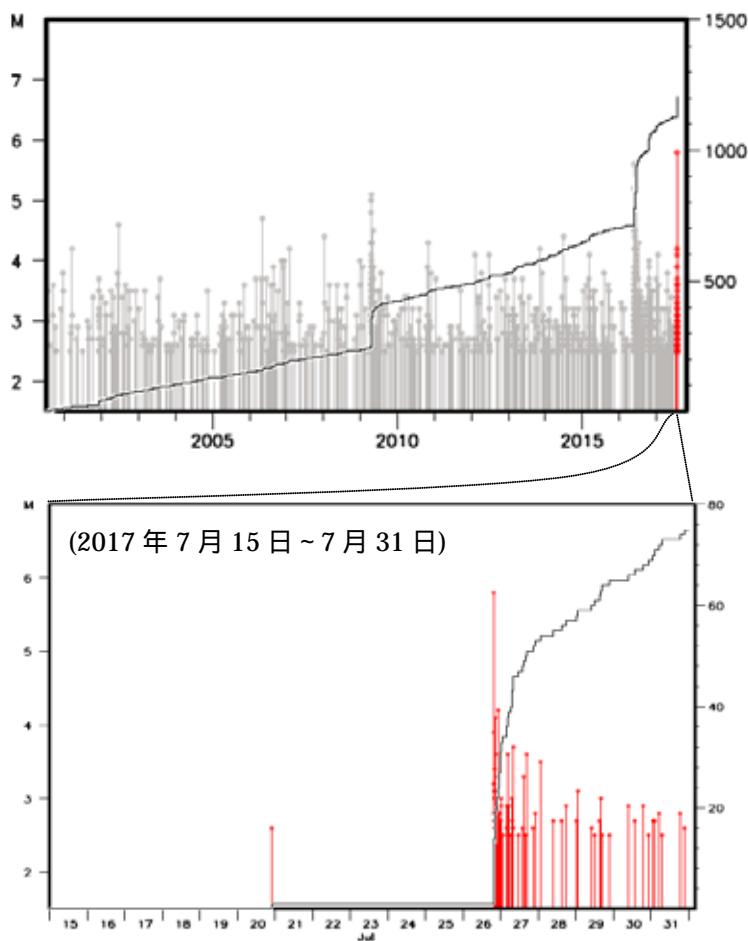
26日頃からややまとまった活動がありました。2000年7月以降、今回の地震の震央付近ではまとまった地震活動が時々発生しています（下参照）。

31日07時38分に沖縄本島近海（久米島の南南東約30km）で発生した地震（M3.6、深さ60km）により、座間味村で震度1を観測しました。

奄美大島近海の地震活動



領域 a 内の M - T 図および回数積算図



大東島地方、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の表（期間：2017年7月1日～31日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2017年07月13日04時04分 沖縄県 震度 1	沖縄本島近海	26° 14.1' N	128° 22.5' E	27km	M4.3
	名護市港*、国頭村辺土名*、恩納村恩納*、うるま市みどり町* うるま市与那城平安座*、南城市知念久手堅*				
2017年07月19日16時15分 沖縄県 震度 2	沖縄本島北西沖	26° 25.6' N	126° 31.4' E	92km	M4.7
	渡嘉敷村渡嘉敷*、座間味村座間味*、渡名喜村渡名喜*、久米島町謝名堂 久米島町比嘉*				
	震度 1：名護市港*、国頭村辺土名*、恩納村恩納*、粟国村浜、宜野湾市野嵩* 沖縄市美里*、読谷村座喜味、中城村当間*、西原町与那城* 豊見城市翁長*、うるま市みどり町*、久米島町山城、久米島町仲泊*				
2017年07月26日19時32分 沖縄県 震度 2	奄美大島近海	26° 55.4' N	130° 11.0' E	66km	M5.8
	名護市港*、国頭村辺土名*、今帰仁村仲宗根*、本部町役場* 恩納村恩納*、北大東村黄金山、北大東村中野*				
	震度 1：名護市宮里、名護市豊原、国頭村奥、大宜味村大兼久*、東村平良* 宜野座村宜野座*、粟国村浜、伊平屋村我喜屋、伊平屋村役場* 沖縄市美里*、読谷村座喜味、中城村当間*、西原町与那城* 座間味村座間味*、うるま市みどり町*、うるま市石川石崎* 南城市知念久手堅*、南城市佐敷*、南大東村在所、南大東村池之沢				
鹿児島県 震度 2	鹿児島十島村悪石島*、瀬戸内町請島*、奄美市名瀬港町 奄美市笠利町里*、天城町平土野*、与論町茶花*、				
	震度 1：大和村思勝*、瀬戸内町西古見、瀬戸内町古仁屋*、瀬戸内町加計呂麻島* 瀬戸内町与路島*、龍郷町屋入、喜界町滝川、喜界町湾* 奄美市住用町西仲間*、伊仙町伊仙*、和泊町国頭、和泊町和泊* 知名町瀬利覚、知名町知名*、与論町麦屋				
2017年07月31日07時38分 沖縄県 震度 1	沖縄本島近海	26° 06.0' N	126° 54.0' E	60km	M3.6
	座間味村座間味*				

*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

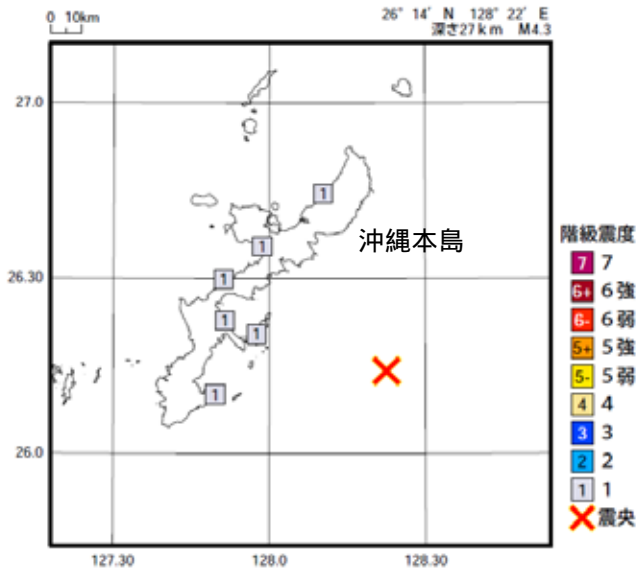
資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

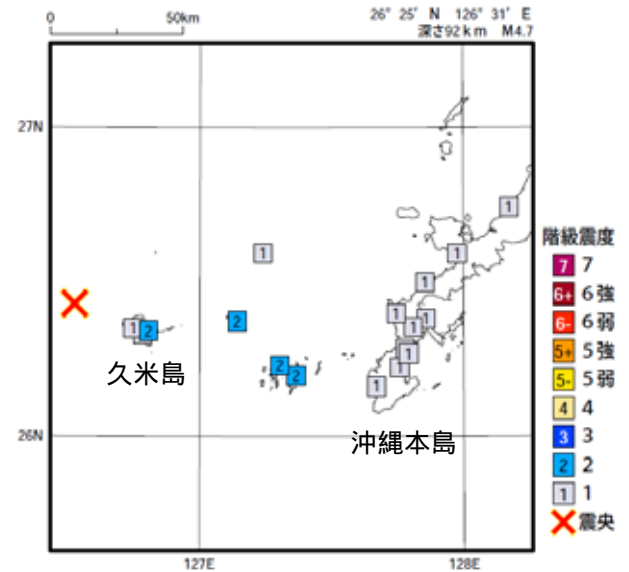
データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布

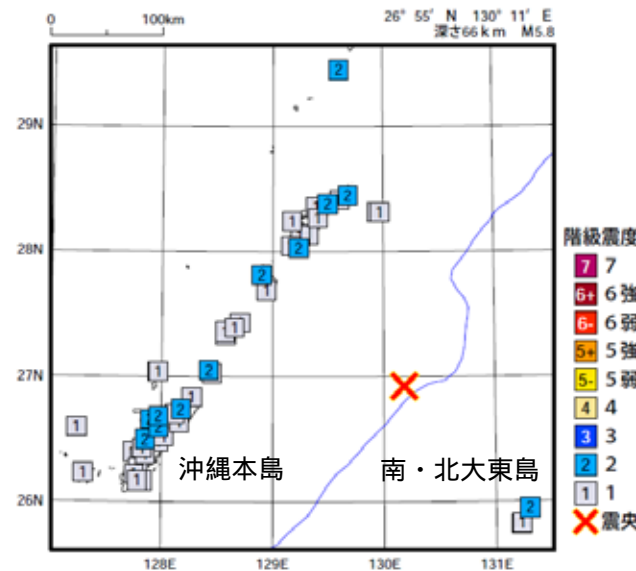
2017年 7月13日04時04分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



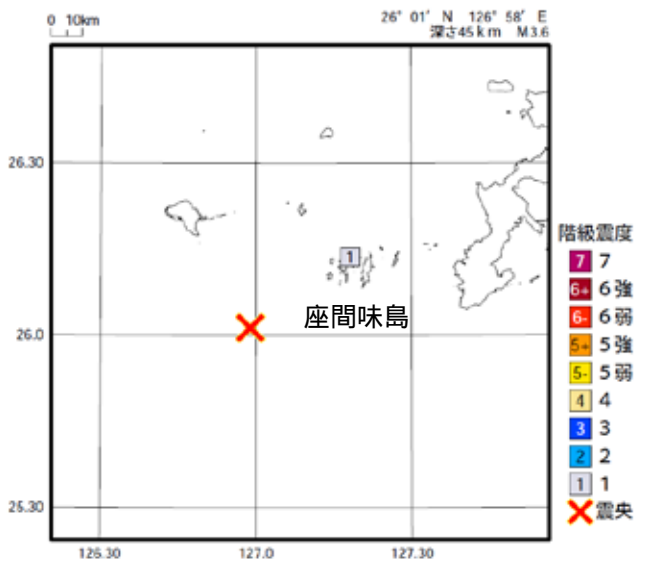
2017年 7月19日16時15分 沖縄本島北西沖の地震の震度分布図



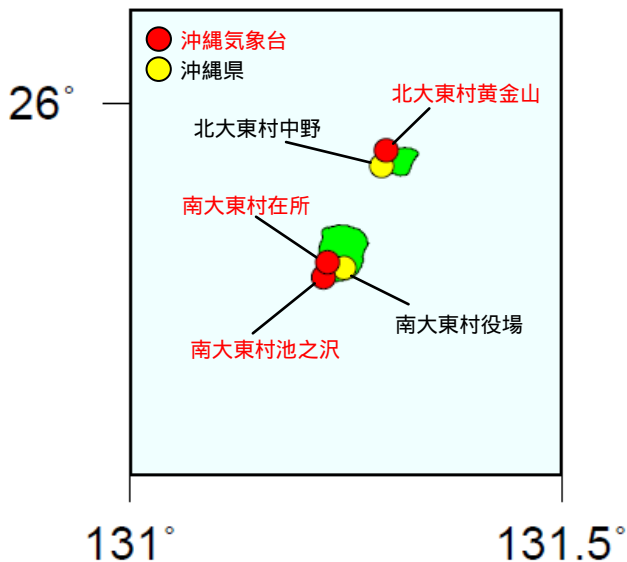
2017年 7月26日19時32分 奄美大島近海の地震の震度分布図



2017年 7月31日07時38分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



大東島地方の震度観測点





本件に関するお問い合わせ先
 (南大東島地方気象台)
 電話 09802-2-2006
<http://www.jma-net.go.jp/daitou/>

9月1日は「防災の日」

～「その時」に対する備えは今でもできる～

9月1日は「防災の日」です。これは、1923年（大正12年）に関東大震災が発生した日であるとともに、台風が多く襲来する時期でもあることから、地震や風水害等に対する心構えを育成するために1960年（昭和35年）に制定されました。

防災も時代とともに変わっています。以前は「地震がきたら火を消せ」と言われてきましたが、地震後に火を消そうとしてやけどを負った事例もあり、今では「緊急地震速報を見聞きしたり、地震が起きたらまず身の安全を確保する」ことが第一になっています。火の始末は揺れが収まってから、あわてずに行いましょう。屋内から避難所などへ避難をする場合は、ブレーカーやガスの元栓を切って避難をしましょう。

沿岸部では強い揺れを感じたり、津波警報等が発表された場合は、高台などの安全な場所へすぐに避難してください。

地震が起きる前にできる防災もあります。例えば、部屋にスリッパを置くことで、避難の際にガラス等の飛散物から身を守ることができます。家具類を固定することで家具が転倒したり飛んだりすることを防ぐことができます。他にも、非常用品を準備したり避難場所の確認や訓練を行うことも地震が起こる前にできる防災になるでしょう。

「防災の日」を前に、いま一度ご家族やご近所で地震が起きたらどうするか、話し合ってみてはいかがでしょうか。



地震発生時の安全確保行動1-2-3
 出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議



津波発生時の避難は
 「より遠く」よりも「より高く」!



地震・火山に関する情報は
 沖縄気象台ホームページまで

<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

